

# 皮膚病

## 病理

### 外邪—風邪

病気の出方・・・突発、速やかに消える。あちこちに出来る。移動する。全身に広がる。  
かゆみを伴う、湿性はあまりない。(風湿は別)

風寒—冷風に当たると出る。寒気を伴う。

風熱—熱、赤み。

風湿

### 湿邪

病気の出方・・・水痘、湿潤、分泌物多い。糜爛し易い。  
慢性化する(治りにくい)。病程が長い。

### 熱(火邪)

病気の出方・・・夏になると増悪する。赤くなる。癢痒する。  
灼熱感、かゆみ、痛み。

### 虫(蚊、毛虫、蛔虫、蟻虫、くらげ etc.)

病気の出方・・・地方に多い、種類多い。かゆみ激しい。  
糜爛する事がある。斑点、黄色いジクジク、  
伝染性がある事がある。

## 不内外因

### 毒(漆、虫咬、食物)

病気の出方・・・原因が分っている事が多い。出方さまざま。  
赤く腫れる、水疱、糜爛、発疹が出る。かゆみ、  
痛みが出る事もある。

## 内邪

### (肝) 血虚

病気の出方・・・慢性化、皮膚乾燥、皮が厚くなる(患部)、ガサガサ、  
落屑がある。かゆみを伴う。分泌物はないか、  
あっても少ない。

### 血瘀(熱の一つ)

病気の出方・・・血熱、皮膚甲錯、ザラザラ、鬱血状態、赤黒い、  
暗赤色、紫色。痛み(刺される様)。患部が移動しない。  
熱感など苦しい症状が夜になるとひどくなる。  
(しかし、ひどくなるのが全部血瘀ではない。)

### 腎虚

病気の出方・・・陰虚—血虚のものと似ている。  
病気が慢性化、乾燥、厚くなる。落屑。色素沈着。

## 症状

斑点	赤いー血熱、血瘀 白いー血虚、気滞
発疹	血熱、風、風熱
疱	水痘ー湿、熱 膿疱ー熱 風団（皮膚面に急に盛り上がってくるもの）ー風、風熱、風寒
落屑	熱、血虚
びらん	湿、湿熱
かさぶた 痂皮（かひ）	膿がたまるー熱 血がたまって固まるー血熱 分泌液が固まるー湿熱
掻いた後が 残る	熱、風
地割れ （しもやけ）	寒、血虚、風燥
色素沈着 （メラニン）	腎虚（茶褐色、黒褐色）
角化	血虚、風熱
かゆみ	走り回るー風邪 乾燥、落屑ー血虚 湿、分泌物ー湿 赤味、熱感ー熱 分泌物（濃）ー熱 激しいー虫 虫が歩いている様ー虫 黄色い分泌液ー虫

## 場所

固定している時→内臓との関係を

頭 太陽膀胱経

顔 胃  
目 肝  
耳 腎、肝胆、三焦  
鼻 肺、脾胃  
鼻突起—脾  
小鼻—胃  
口唇 脾胃  
舌 心  
うなじ 肝胆

脇 肝胆

乳 胃、肝  
乳首—肝  
乳房—胃

背中 陽

足 前一陰経  
後一陽経

手の平 心包

足の裏 腎

# 薬の使い方

1. 表に病邪が入ってくる・・・表証
2. 体内に病邪が元々ある・・・内傷

## 1、表証

葛根湯—陽部に出る、初期、悪寒、発熱

風寒の邪が表に入ってくる（起きたらすぐ飲ませる）

- 急性蕁麻疹— 起こり方が突発、悪寒、発熱、かゆみ強い（十味敗との違い）、斑、赤く広い、腫れる、かたい（表実）、発疹の出方が顕著。  
例外）赤味なし、硬さなし
- 一般の蕁麻疹— 初期、発熱、患部熱感強い、赤味、腫れ、かゆみ、分泌ほとんどなし。まれに水疱を伴う（帯状ヘルペス）

十味敗毒散—風寒の表証

- 蕁麻疹— 突発、悪寒発熱、大きく隆起する（葛根湯との違い）、赤味
- 慢性蕁麻疹— 小柴胡タイプに準ずる人に使う（急性の時は違う）
- 一般の皮膚病— 慢性、隆起少ない、赤味少ない、落屑、かゆみ、分泌物、痂皮はない、小柴胡タイプ。

香蘇散—風寒の表証、気鬱

- 蕁麻疹— 悪寒発熱、魚肉性（アミン）、赤味、心下痞悶、食欲低下、吐き気、憂鬱感、頭痛、頭重、脈沈

桂麻各半湯—風寒の表証

- 急性蕁麻疹— かゆみ強い（眠れない）、熱感は軽微
- 一般の皮膚病— かゆみ強い、外面はひどくない、赤味少ない、皮膚の下を虫が歩く様な感じ、不眠

五苓散—風湿、夏に多い（小児ストロフィルス）

突発的に出る、悪風、水疱を持つ、ジクジク分泌液が多く出る  
かゆみが強い、鳥肌が立っている様（肉上泡起）、口渴

桂枝加黄耆湯—風湿

水疱、発疹が小さい、汗が出やすい、疲れやすい、虚弱体質

麻杏薤甘湯—風湿、血燥（水虫、イボ）

血燥、皮膚乾燥、一部ジクジク（湿）、落屑、かゆみ少しある

フケの多い人が多い

### 防己黄耆湯—風湿

毒麻疹— 突発、赤くかゆみ（そんなに強くない）、悪風、口渇、尿不利、  
身体が重い

慢性蕁麻疹— タイプ論

### 越婢加朮湯—脾～肌肉に湿熱（きたない）

びらん、分泌物量多く濃く、湿潤、臭いが強い、かゆみ強い、  
（痂皮を形成、浮腫）、肉極（肉が痩せてくる）、（口渇）、尿不利

### 清上防風湯—風熱、実証（当芍の人には使えない）

皮膚病— 顔、頭中心、赤い（真っ赤）、かゆみ強い、のぼせ、顔面熱感、  
酒查鼻に応用、頭部湿疹に応用

### 防風通聖散—裏に風熱も兼ねている

慢性— タイプ論、風熱、赤味、かゆみ、糜爛、湿潤、逆に乾燥の時もある  
乾燥の便秘、中年の男に多い

## 2、内傷

### 血熱

#### 三物黄芩湯—血虚、血熱（進行性指掌角化症、水虫）

皮膚乾燥、割れる、かゆみ強い、赤い、熱感、痛み  
煩熱（四肢）して寝むるを得ず、手足に多い、口渇、口乾  
人によっては上逆性頭痛、外用も良し

#### 温清飲—黄連解毒湯（実熱）+四物湯（血虚）・・・実証の薬

赤い～黒い、熱感、かゆみ強い、皮膚乾燥、落屑、搔いた痕が残る  
痂皮—黒ゴマぐらいの小さいものをもつことがある  
手足の煩熱、皮膚（正常な所）—黄褐色（血虚）、ほてり、  
胸のもやもや、上半身の陽部に出る事が多い

#### 消風散—血熱+風湿

きたならしい、びらん、分泌物多い、赤い、かゆみ強い、地肌が  
赤くでる、痂皮を持つ、夏に増悪する、口渇、四肢煩熱  
夏、日焼けできたなく焼ける様な感じの人

黄連阿膠湯—血熱+陰虛　・・不眠症の薬

乾燥、糠みたいな落屑、面部、隆起が低い、赤味少ない  
ざらざらした感じ、かゆみ多くて眠れない場合や少ない場合がある  
顔が赤い、煩躁して眠れない、上昇する、心中煩

黄連解毒湯—三焦（通路）の熱　・・二次的に血熱

温清飲ほどでないが、赤く、かゆみ強い、皮膚少し乾燥気味  
強い時は温清飲  
上焦、軟便（べとべと）→紙をよく使う（湿熱）

## 血虚

四物湯—血虚+（駆瘀血）

かゆみそれほど強くない  
乾燥、分泌物は軽度、乾燥、発赤少ない、灰白色  
隆起少ない、発疹小さい、かゆみある

消風散

黄連阿膠湯

当帰飲子—風証を兼ねている、血虚、老人衰弱、陰虚系統、人参湯と区別、皮膚乾燥

当帰四逆加呉茱萸生姜湯—血虚+寒　末梢神経

肝　肝

患部、青、白、自他覚的に冷え、患部亀裂、  
しもやけ、進行性指掌角皮症

温経湯—桂枝湯主体　榮衛の虚　+　人参　+　川芎、当帰　+陽気の虚

（気血）　（気を強く）　（血を強く）　（冷え）

下腹部の不快、口唇の燥、手掌の煩熱

当帰芍薬散—四物湯—地黄+3つの利水剤

肝の血虚、脾虚、水滞  
乾燥は起こらない、全身の弛緩タイプ  
患部の血色悪い、黒っぽい（水）、にきび、水虫の一部  
シミ、目の下部—脾胃の水

十全大補湯—四物湯+四君子湯+桂枝+黃耆

(血虚) (気虚) (表虚)

皮膚乾燥、ジクジク(全身乾燥)、血色なし

## 血瘀

患部のしこり、色が赤黒い、痛み(刺)—夜間増悪、皮膚甲錯、ザラザラ  
血熱

桂枝茯苓丸—血瘀はあまり強くない

赤黒さは強くない、赤+紫黒、血熱—赤味、かゆみ→夜間激しい  
患部熱感

桃核承気湯—程度が強い、症状はほぼ同じ

熱が強い→分泌物濃い、かゆみ強い、自覚的ほてり  
湿疹→痂皮(かさぶた)形成

大黃牡丹皮湯—血熱、血瘀

腸癰(おでき)、虫垂炎様疾患  
桃核承気湯と似ているが、化膿が強い、分泌物強く、臭い強い  
痂皮、暗褐色、臭い強い

## 胃熱

筋肉に熱

白虎湯—甘寒剤

赤味強い、かゆみ甚だしい、患部に熱感

白虎加人参湯—喝(えつ)→中暑

夏に増悪、口渇、眠れない、煩躁

茵陳蒿湯—脾胃湿熱(実)

かゆみ強い、発疹、熱感、眠れない  
口渇、食中毒の蕁麻疹

白虎加桂枝湯

## 承気湯類

## 肝熱

肝熱→風熱→筋、内風

## 小柴胡湯

### 柴胡桂枝湯

柴胡—外風熱をさます

### 大柴胡湯

やや湿熱を取る作用強い、分泌物、痂皮がきたない

### 加味逍遙散—肝血虚、脾虚、水滞、肝熱、肝気鬱（鬱熱）

燥（強ければ十四物湯＝黒皮症）、分泌物少ない、かゆみ強い→  
血がにじむ→すぐ乾く、往来寒熱（肝熱）、日晡所熱（血虚）、  
移動性（風）、全身かゆみ（風）、陰部のかゆみ

### 黒逍遙散—逍遙散＋地黄

## 腎虚

### 八味丸—腎陽虚

黒、発疹小さい、かゆみある、乾燥、老人性掻痒症  
軽いほてり感、糖尿性

### 真武湯—腎陽虚＋水滞

かゆみ、皮膚表面変化なし、うすいサラサラの分泌物（水滞）  
陽虚証→冬になると増悪  
蕁麻疹→細かい、かゆみ少ない、発疹が白色、熱感なし  
水泡をもつときもある



# 病程による治法

病程

- 1、腫瘍 初期  
          中期
- 2、潰瘍  "     "  
          後期

(病機)	(病理)	(治法)	(主要症状)
①初期—毒邪結緊・・・	表寒証	(風寒、風熱)	葛根湯、十味敗毒湯、荊防敗毒散 <u>発赤、腫脹、疼痛、無汗</u>
	表熱証		排膿湯 (隆起あまりない)、桔梗湯、 清上防風湯 (上半身、隆起) <u>発赤、腫脹、疼痛甚だしい</u>
	裏実熱 (胃)		内疏黄連湯、大柴胡湯、三黄瀉心湯、 調胃承気湯 <u>腫脹拒按、口乾、便秘、黄～黒苔、 譫語</u>
	表裏実熱		防風通聖散 (食滯、熱滯) <u>悪寒、発熱、便秘、尿黄、口乾</u>
	熱結気分 (三焦)		黄連解毒湯、白虎湯 (苦寒と甘寒の違い) <u>紅腫熱痛、発熱、汗出、口渴</u>
	寒凝 (しこる)		甘草乾姜湯、(人参湯、苓姜朮甘湯の源) <u>漫腫酸痛、不紅不熱、肢冷悪寒、白苔</u>
	肝鬱気滯		逍遥散 (熱強ければ加味逍)、小柴胡湯 小柴胡湯加桔梗石膏 (熱強ければ)、 龍胆瀉肝湯 (湿が強ければ) <u>硬結腫痛不甚、多不紅不熱</u>
	瘀血行滯		桃核承気湯 (下焦)、桂枝茯苓丸、 大黄牡丹皮湯 (下焦)、+葛根湯 (混合型) <u>結塊腫硬疼痛、紅熱～青紫、赤黒</u>

②中期—化膿・・・・・・気血実（邪を追出そうとする）

排膿散

高腫欲化膿、疼痛、堅硬

気血虚（戦いが激しく気血不足）

托裏消毒散、千金内托散、伯州散（×初期）

瘡形平坦（出ばってない）、難潰難腐

膿出・・・・・・向愈

内服薬不用→外用薬を

腫勢斬消、痛減、全身症状消失

気血虚（気血不足）

托裏消毒散、千金内托散

初潰膿少～膿稀～堅硬不消～肉芽不生

③後期—生肌収口・・・・・・気血虚（正気を補う）

十全大補湯、帰耆建中湯、

帰脾湯

（食欲不振、神経症、健忘症→補気血）

+附子（陽虚）

潰後不斂、膿稀、肉芽不生、

体倦神疲、盗汗

陰虚

六味丸

骨蒸盗汗、咽喉乾燥、肉芽不良

舌苔光剥（地黄剤の目標）

陽虚

八味丸

瘡色灰暗、新肉難生、自汗肢冷

白苔（陽虚）

脾胃虚

補中益気湯、六君子湯

食少、気虚乏力、肢倦、健忘

1989. 11. 24